

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースの関係で適切である	8	法令の基準に適した適切なスペースを確保しています。		
	2	職員の配置数は適切である	7	1	基準を満たす人員配置をしており、療育に関わる職員は、全員有資格者です。	児童の下校時間が重なっている部分が多く、送迎のために職員が手薄になる時間帯もあります。随時調整を行い、安全面を配慮して療育に取り組みることができるよう努めてまいります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	玄関は段差がありますが、スロープを配置しており、移動には支障のない環境となっています。	トイレに行く通路に段差があり、現在、車椅子の利用者や移動の介助が必要な児童は在籍していませんが、児童が怪我をすることなく過ごすことができるよう安全面に留意しながら支援を行ってまいります。
業務改善	4	業務改善を進めるためPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		日頃から、ミーティングやリフレクション会議にて情報共有や話し合いを行い、現状把握と改善点の討議をしています。	
	5	保護者様向け評価表を活用するなどによりアンケート調査を実施して保護者様の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者様に向けてアンケートを毎年実施し、ご意見やご意向の把握を行い、業務改善に繋げています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や公式Webサイト等で公開している	8		COMPASS 発達支援センター公式 Web サイトにて公開しております。	今後も公式 Web サイトで公開してまいります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8	現時点では第三者評価は実施できておりません。	第三者による外部評価については今後の課題として検討してまいります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		年間予定を立て、事業所内の職員研修を定期的に行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、児童と保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		契約時やモニタリング時にアセスメントを行い、児童と保護者様のニーズや課題を確認しながら、適切な計画を作成しています。	
	10	児童の適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		全事業所統一で標準化されたアセスメントシートを使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		児童の現状や特性、保護者様のニーズ等を加味しながら、有資格者それぞれの立場から意見を出し合い、活動プログラムの立案を行っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		職員間で話し合い、季節ごとのイベントや、その年の時事を取り入れた活動を行っています。また、週末や長期休暇等は理学療法士の指導の下、運動療育も取り入れています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		平日は学習支援を中心とし、週末や長期休暇は集団活動や季節のイベントを適宜取り入れています。	
	14	児童の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している	8		児童一人ひとりの特性や、状況、活動時間に応じて個別活動と集団活動を組み合わせています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		支援開始前、一日のスケジュールや支援内容等を話し合っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		当日の送迎後、もしくは翌日の支援前の時間を利用し、支援の振り返りや情報共有を行っています。	
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		支援内容や児童の様子を正確に記録することを徹底しており、次回の療育の担当者への申し送りや、職員間での情報共有を行いつつ、支援の改善に努めています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的にモニタリングを実施し、児童の現状や保護者様のニーズを把握、分析し、計画を作成しています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	8		児童の状況や特性、保護者様のご意向を考慮しながら、ガイドラインの示す活動を組み合わせることで支援を行っています。		
関係機関や保護者様との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその児童の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		担当者会議には、児童の状況に精通している児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、児童の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8		学校からは行事予定表や、電話連絡やFAXを頂戴するなど情報共有を受けています。送迎時の変更やトラブル等の連絡は随時管理者を中心に適切に行っています。	
	22	医療的ケアが必要な児童を受け入れる場合は、児童の主治医等と連絡体制を整えている		8	現在医療的ケアが必要な児童は在籍しておりません。	事業所は重症心身障害以外の児童が対象となっていることもあり、今後受け入れ希望があった場合は、慎重に検討し、受け入れ体制・事業所のあり方について模索してまいります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		必要に応じて関係機関と連絡を取り合い、情報共有や相互理解を図っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8		必要に応じて事業所での児童の様子や支援内容等について情報提供できるようにしています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		児童発達支援センターなどの専門機関と連携し、助言をいただいたり、担当者会議等を通して情報共有を行ったりしています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流など外部との活動する機会がある	8		現在、交流の機会を設けることはできていません。	児童の現状や保護者様のご意向等を踏まえて、交流会の機会を検討してまいります。
	27	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	1	職員個人の状況に合わせて参加するようにしています。	日程の調整が難しい場合もありますが、職員の意思を尊重しながら、自身に必要な研修・講演等に参加できるようにしていきます。
	28	日頃から児童の状況を保護者様と伝え合い、児童の発達状況や課題について共通理解を持っている	8		連絡帳や送迎時に今日の様子や療育内容をお伝えし、保護者様へ児童のお家での様子等も伺うようにしています。また、必要に応じて電話連絡や家庭訪問も行うようにしています。	
29	保護者様の対応力の向上を図る観点から、保護者様に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	4	ペアレント・トレーニング等の支援は行えていませんが、家庭連携を通して保護者様からのお悩みやご相談を受け止め、児童の様子を踏まえて適切な助言等ができるよう努めています。	今後も家庭連携等を通して相互理解を深めつつ、保護者様への助言・支援が適切に行えるよう努めてまいります。	
保護者様への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に運営規程、利用者負担等について書面を用いて丁寧に説明を行っています。また、質問や疑問点があれば、随時対応するようにしています。	
	31	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		連絡帳や送迎時のやりとり、電話連絡等で保護者様からのご相談に応じ、適切な助言・支援ができるように努めています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催したりするなどにより、保護者様同士の連携を支援している	8		現在、保護者会等の機会を設けることはできていません。	保護者様のご意向を踏まえて、保護者様同士の交流の機会を検討してまいります。
	33	児童や保護者様からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		苦情窓口を決め、苦情をいただいた際には担当者・責任者を中心に全職員でいただいた内容について精査し、迅速かつ適切に対応できるよう努めています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を児童や保護者様に対して発信している	8		季刊のCOMPASS だよりや事業所ごとに発行している事業所だより、ブログ等を通して情報を発信しています。	
	35	個人情報の取扱いに十分注意している	8		契約時に個人情報の掲載に関して書面を用いて保護者様の同意をいただくようにしています。実際に掲載する前にも掲載の可否を確認するようにしています。また、契約時の書類や個別支援計画等は鍵付き書庫にて保管をしています。	
	36	障がいのある児童や保護者様の意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		児童の状況や特性に合わせた伝達方法を模索し、適切な意思の疎通や情報伝達ができるよう心がけています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8		現在、事業所行事に地域住民を招待する企画は行えていません。	児童の現状や保護者様のご意向等を踏まえて開催を検討してまいります。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者様に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		各種マニュアルを策定し、職員や保護者様がいつでも確認できるよう事業所に掲示をしています。	
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		地震・風水害・火災の避難訓練と不審者対応の訓練を年に1回ずつ行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		事業所内の社員研修を実施し、虐待防止への意識向上に努めています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、児童や保護者様に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		利用契約書に身体拘束の禁止が記載されており、生命又は身体を保護する為にはやむを得ず身体拘束を行う場合は、あらかじめ文書により保護者様の同意を得るようにしています。	
	42	食物アレルギーのある児童について、医師の指示書に基づく対応がされている	8		契約時にアレルギーについて確認を行った上でアレルギーの一覧表を作成し、職員への周知を行っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		発生時には報告書を作成し、職員で情報共有を行い、再発防止に努めています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。